

増加傾向にある 野生鳥獣による被害

■野生鳥獣のうち、次の生物は「有害鳥獣」と定義され、地方自治体で対策を行っています。

▼クマ、イノシシ、シカ、サル、ハクビシン、タヌキ、キツネ、カラスなどの農林業や生活環境、生態系に影響を及ぼす鳥獣のこと。主な被害例として、農作物の食害、敷地内での糞尿、家屋の損壊、鳴き声の騒音などがあります。またクマなど大型獣の場合は人的被害も発生する危険があります。これらの鳥獣は「鳥獣保護管理法」に基づき、地方自治体の許可を得て、有害鳥獣捕獲(駆除)が行われています。

近年、全国各地で有害鳥獣による被害例が報告されており、ここ数年はクマによる人身被害の件数が増加しています。一般的にクマは4月頃から冬眠から目覚め、出没しやすい季節となります。また初夏を迎えるこれからの季節は次の特徴があるので、クマと遭遇し被害に遇わないよう注意が必要です。

①クマの交尾期にあたるため、オスとメスが共に過ごすことが増える。また、子グマは母グマと離れて暮らし始める

②若い個体が人里に近い低標高地で活動することがある

③山の食べ物が少なくなるため、人里に出没しやすくなる

これからのシーズンは農作業や登山など、屋外で活動が増えるため、野生鳥獣と遭遇する可能性も高まります。本特集では、クマを中心とする野生鳥獣との関わり方や狩猟についてご紹介します。森や自然、豊かな生態系に囲まれた小諸。野生鳥獣との関わり方を考える機会に、ぜひお役立てください。



①狩猟で捕獲したクマの回収の様子。②クマの檻を設置する地元ハンターの皆さん。



【写真はイメージです】

これからのシーズン 気をつけたい 野生鳥獣



【写真】檻にかかったクマ

小諸市における 野生鳥獣の現状

小諸市でも野生鳥獣は増加傾向にあります。背景として、①猟友会員の減少と高齢化、②耕作放棄地などの隠れ場所や餌場の増加、③温暖化により冬の死亡率が低下し、個体数が増加しやすい環境になっているなどが理由として挙げられます。同時に鳥獣の生息圏域も広がってきており、里山だけでなく市街地での目撃情報も報告されています。

野生鳥獣の被害として一番多いのはニホンジカ、イノシシ、ハクビシン、クマなどの農作物への食害です。

■主な農作物の被害例
・トウモロコシ、リンゴ、ワイン用ぶどうなどの食害
・田んぼや農業用マルチの踏み荒らし

またクマについては、以下のような事例も過去に発生しています。

- ①令和6年8月、天池区の総合運動場付近で男性がクマに引っかかれ、軽傷を負う事故が発生
- ②令和6年9月、蛇堀川伝いに山を下りたと見られるクマがひばりヶ丘区などで目撃される

令和6年秋、天池区周辺の生ごみ置き場に出没し、老朽化した鍵が破壊され、中の生ごみが食べ漁られる大型鳥獣のうち、クマやイノシシなど大型のものに遭遇すると命にかかわることもあるため、特に注意が必要です。

小諸市の ガバメントハンター

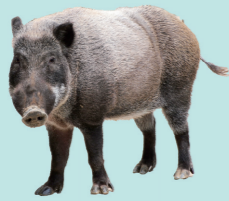
猟友会員の減少や専門的な知識を持つ人材が必要とされるなか、小諸市では狩猟免許などを持ち、野生鳥獣対策に従事する自治体職員「ガバメントハンター」を設置しています。これにより、緊急時でも猟友会等による現地確認や鳥獣の確保可否・方法の助言の中間が省け、捕獲までスムーズな対応が可能となっています(強化対策等はP5に記載)。クマをはじめとする野生鳥獣は基本的に温和で臆病な性格ですが、ヒトと遭遇すると反射的に襲ってしまうことがあります。本特集で動物の生態を知っていただき、上手に付き合う方法をお伝えできれば幸いです。

！ 出没頻繁！小諸市にも生息する主な野生鳥獣



ニホンジカ

市内のほぼ全域に生息している、繁殖力が非常に高い草食獣です。ハンター人口の減少などに伴い、生息数は増加しています。また、交通事故では車体等にも甚大な被害をもたらすことがあります。



イノシシ

浅間山麓を中心に生息しており、山間部から里山にかけて出没します。非常に警戒心が強く、かつ知能の高い雑食性の哺乳類です。成獣の体重は50～150kg程度で、50km/hで走ることもあるため、注意が必要です。



ツキノウグマ

天池区、菱野区、南ヶ原区など、浅間山麓を中心に生息しています。成獣は体長100～150cm、体重40～130kg、木登りや水泳も得意で、60km/hで走ることができます。子グマを連れた母グマは凶暴で特に危険です。



その他

その他、タヌキ、ハクビシン、カラスなど、中型・小型の野生鳥獣も広い範囲に生息しています。人的被害は少ないですが、農作物の食害は多く報告されています。